

# 「東アジア漢文文化圏」における現在の学術研究レベルと成果

## その研究領域の一般活用と手続き

(中国・韓国・北朝鮮・モンゴル・ベトナム・タイ・インドネシアなど)

萩原 義雄

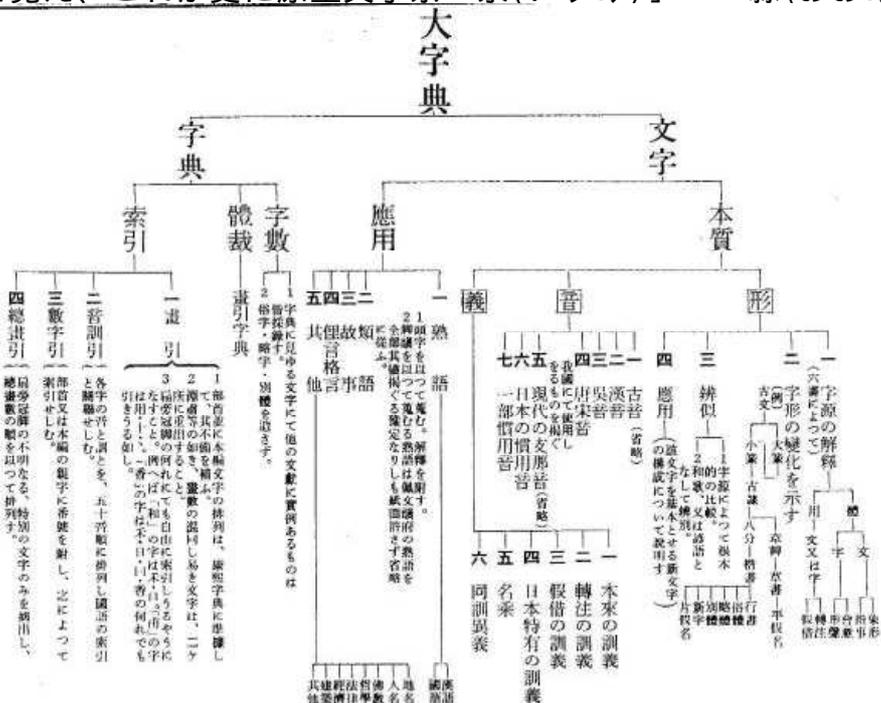
### 東アジア文化圏の時代

漢文・漢字を共有し、儒教の伝統を根底に秘めたこの文化圏は、この本邦である日本を先魁として、二十一世紀国際社会のなかで一つの文明形態を生み出そうとしています。今、比較的穏やかな気候・風土に恵まれたこの東アジア文化圏から、「対立よりも調和」、「分裂よりも融合」、「我」よりも「我々」を基調に、人と人とが、また、自然と人間とが共に生き、支え合いながら、共に繁栄していこうという心的傾向を知っておかねばなりません。儒教の精神に加えて、仏教の精神も見逃してはなりません。「山川草木悉皆成仏」に象徴される自然と正に「共生」しようとする意志ある思潮は、環境破壊や資源・エネルギー問題等が生活のなかで深刻化し、これから人はどう歩み続けるのかを模索し実践し、人らしく生きようと精進努力を重ねていくでしょう。この精気こそが私たちにとって「水の一滴」に等しいのかも知れません。

### 東アジア文化圏の言語

西欧の言語圏が言語の本質を「音声」にあるとするのに対し、漢文・漢字圏は、「視覚映像」を基調とします。「絵文字」・「象形文字」・「音節文字」「単音文字」という展開です。逆に、「音声」に不可欠な「音素」そのものが数のうえで僅かに二十というのが日本語の特徴でもあります。ですが、日本語の文字体系や表記体系は細に入れば入るほど複雑な構造を有していて、日本人の小学生・中学生・高校生・大学生・一般社会人・専門知識人といった段階型のレベル層が自ずと出現せざるをえません。ですが、レベルアップをするのは意外と容易なのかも知れません。漢字コードで、「水」の文字を覚え、これが更に原型文字系「泉(いずみ)」～「森(おおみず)」と「踐」と「灑」の二種類に分

化し、そこに文字が配置されていることとなります。たとえば、「踐」に「水」で「氷(こおり)」...「冷(つめたい)」「凍(こおる)」「凝(こる・こらす)。「灑」に「水」で「泳(およぐ)」...「江(え = 水溜まり)」「湖(みずうみ)・池(いけ)・澤(さわ)・沚(なぎさ)・汀(みぎは)・渚(なぎさ)」と意味の異なりが生じていくのです。「灑」の文字のなかには、原型文字系から移行した古体「杵」の文字が「洒(あらう)」といった文字になるのも含まれたりしています。ですが



内容一覽表

ら、「海(うみ)」も「挟」の文字を持っています。「彳」の漢字文字は、『廣漢和字典』に約七四四字を収載しています。こうした漢字文字は、本質と応用とに二分類し、本質は「形・音・義」の三分割され、『大字典』の表を御覧願います。ここで、「転注」を例にとって説明すれば、

「風」(風雨) 風(風教) 風(風俗) 風(國風) 風(風誦) 風(風刺)

のように、関連しつづけながら、意味的広がりを始めていきます。このようにして、次の「仮借」をも含め、文字の広がりをダイナミックな形態にしていけます。いわば、小画面画像からワイドな大画面画像へと変容させていくものがこの文字から見て取れるのではないのでしょうか。ここから、音の話をする必要が生じてきます。こうした文字を例えば「山」で言えば、中国人が読む場合は、「shān」。韓国人は「山」。日本人は「サン・セン」と読んでいます。読み方が異なれば当然、意味理解に及ぶことが難しくなります。ですが、筆記することでここに共通した意味理解を始めることができるのです。正に不思議な世界といえるでしょう。この漢字を用いてきた民族として、中国漢民族・朝鮮・日本そしてベトナムといった四つの民族がいるわけですが、ここで最後の国ベトナムですが、ことばを表すにふさわしい偏と旁を改組して一四世紀に「字喃」の「窟」「桷」文字を創作しました。朝鮮では約五〇〇年前、一五世紀半ばに「諺文 = 訓民正音(音素文字)」、そして日本は「かな・カナ」を創作しました。ですが、漢字に訓(釈)を用いて表現する形態は韓国(吏読・口訳・郷札)と日本だけでした。各地に遺る地名は、これを示唆してくれます。「我孫子」式の漢字熟語を同じ漢字を用いる他国の人が見たら何と思うのか考えるだけで奇妙奇天烈さが表出してきましょう。

次に、漢字文化圏から外れているが、契丹族(モンゴル東部に住む)による「契丹文字」も漢字の影響を受けた表意文字といえるでしょう。興宗・道宗及びその妃の碑文などが知られています。これが後に金の「女真文字」の先駆となっていきます。一三世紀には、モンゴル族の王朝をジンギス・ハーンが開いて「モンゴル文字」が用いられるようになっていきます。この王朝は一〇〇を超える部族を統括する征服王朝であり、やがて漢民族の王朝宋を滅亡させ、世界最大の帝国元を建てました。このモンゴル文字には、二種類あって、ウイグル系モンゴル文字とチベット文字を基盤にしたパスパ文字とがあります。このパスパ文字は、フビライがチベット僧パスパ Hphags-pa 八思巴 に命じて創らせた方形文字で一二六九年から約一〇〇年間用いられました。前者の方は近代まで使用されてきています。さらに、チベット系のタンゲート族が一〇三八年、西夏を建て、結合文字である西夏文字を普及させています。この文字も漢字の性格に類似するものです。

## 「漢字」の流動性とその基盤文化

漢字が流入する特徴は、

漢字をそのまま使用する言語段階

- (1) 漢字を漢字として漢文のなかに用いる
- (2) 漢字・漢文で思想・感情を表現する
- (3) 固有名詞から漢字による土着語の表音化がはじまる
- (4) 土着語のシンタックスを表した漢字文が用いられる
- (5) 接辞や助詞の表記がはじまる
- (6) 漢字の訓読がうまれる

新しい文字を考案する言語段階

( 8 ) 漢字を変形する

( 9 ) 漢字の構造原理を組み合わせる

(10) 漢字を改造する

(11) 漢字の象形原理を模倣する

(12) 形だけ漢字を装う異形の文字を表す

別系統の文字を使用する言語段階

(13) モンゴル文字

(14) ヨーロッパ系のアルファベット文字を導入する